

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶FRB議長きょう来日

学びたい対話の姿勢

米連邦準備理事会(FRB)のグリーンズパン議長が十七日に来日する。同議長は来年初めにも退任するとみられるが、十八年を超える在任期間中にアジア通貨危機に伴う経済混乱やIT(情報技術)バブル崩壊を乗り切ったなど、米国経済の安定に果たした手腕は高く評価されている。

同議長は市場関係者から絶大な信頼を得てきた。市場心理を把握するのにたけているうえ、何を市場に伝えたいのかが明確だからだろう。また、しばしば議会でも証言し、経済の実情を国民に説明しようとする努力を続けている。

日本も金融の量的緩和政策からの脱却が視野に入ってきた。金利機能が正常化すれば、非常時対応に追われてきた日銀も市場からの信頼を得ずに政策を進められないだろう。財政・金融規律の緩みも考慮しながら、独立した中央銀行として政府との関係で説得力ある政策展開も求められる。日銀にはぜひとも同議長の手腕を学んでほしい。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。